



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs.

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -
 c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

Oct. 1982

I-1

Life by the Spirit

You, my brothers, were called to be free. But do not use your freedom to indulge the sinful nature; rather, serve one another in love. The entire law is summed up in a single command: "Love your neighbor as yourself."

兄弟たち、あなたたちは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、³肉、に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛せよ」という一句を守ることによって果たされるからです。
 (ガラティアの信徒への手紙 5章13節~14節)

THEME (1982~'83)

- I . P . OPPORTUNITIES
 . THROUGH PARTNERSHIP
- R . D . GOOD WORK
 WITH GOOD HEARTS
- D . G . 全員参加でワイズにパワーを!
 メネットも共に
- P . ONWARD CENTENNIAL

チャーターナイトを終わって——謝辞——

会長 山中 秀 男

9月25日(土)開催いたしましたチャーターナイトには台風一過のお出ましにくい所を全国からご参集いただき、ありがとうございました。スポンサークラブの大阪クラブ、兄弟クラブの土佐堀クラブを始め皆様から物心両面にわたるご指導、ご援助を賜わり、今後の使命に向けて決意を新たにしている次第です。

当日は直前まで台風19号の襲来におびやかされましたが幸いにもそれ、先ずは天候に祝福され輝かしい門出になりました。

チャーターナイトの直前にカナダ・シャロットタウンにあるアルファ(センテニアル)ワイズメンズクラブ会長のドナルド・ウォサム氏から祝辞をいただきました。我々センテニアルのネーミングのヒントとなった同名のクラブがシャロットタウンにあると聞き、メッセージの依頼を出したことによる返事です。

シャロットタウンYMCA創立100年を記念して出来たクラブとの事、我々の大阪YMCA 100年と背景は同じです。シャロットの街は、同地で生れ育ったルーシー・モンゴメリーの傑作『赤毛のアン』で有名な所です。アンの誠実さ、清純さ、空想、夢は時代を超えて人々の心に強く迫ってきます。アンが苦境にもめげず常に自分をふるいたたせ(cheer up)、辛抱強く難局に当たった(bear up)ようにセンテニアルも次の使命に向かって前進したいと思います。Onward CENTENNIAL.

皆様のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。



10月例会プログラム

と き 10月20日(水) 6:30~8:30
 と ころ YMCA国際・社会奉仕センター

- | | | |
|------------------|-----------------|-------------------|
| | 司会 | 田中穣二君 |
| 1. 開 会 | | 山中会長 |
| 2. ワイズソング | | 一 同 |
| 3. ゲスト紹介 | | 山中会長 |
| 4. 9月役員会報告 | | 長安副会長 |
| 5. 晩 さん | | — 食前感謝 — |
| 6. BFの話 | 中西部BF主査 | 江指たすく君 |
| 7. IBCの話 | 日本区IBC YEEP事業主任 | 谷川 寛君 |
| 8. YEEPの話 | — 臺州留学体験談 — | 大阪長野クラブ 中野林蔵コメット君 |
| 9. 3分間スピーチ「自己紹介」 | | 当日指名 |
| 10. インフォメーション | | |
| 11. 閉 会 | | 山中会長 |

記念講演「みんなの者が一つとなるために」

I 75%の貧しい人々に目を向けて。

世界の人口44億のうち75%の33億が発展途上国に住む貧しい人々である。この75%の人々は、世界のGNPのうち17%しかもたず、エネルギーは15%しか使っていない、世界で生産される穀物の30%しか食べていない。又、教育費はわずか11%、医療については6%のサービスを受けるのみという恵まれない状況におかれている。

日本人が国際的という場合は欧米先進国のことを考え、この75%の発展途上国、いわゆる第3世界のことは目を向けてこなかった。このアンバランスを改めて貧しい国、遅れた国、気の毒な人達の住んでいる国への理解を深めようというのが開発教育(Development Education)である。

欧米諸国では1960年代後半にすでに開発教育の必要が唱えられ、殆んどどの国では政府がこれに力を入れている。日本ではやっと3年位前から新聞などにも取り上げられるようになったが、政府はいっこうに興味を示さないし、国民一般にも理解されていない現状である。このことは日本の国自体がつい最近まで欧米諸国に比して貧しかったことにもよるが、明治以来「欧米に追いつけ追い越せ」と励んで来た日本人の白人崇拜・有色人蔑視の気持の反映として官民ともに無関心であったことに由来するものと考えられる。

II 心の温かさ、思いやる気持を青少年に。

今一つ日本の出世主義の学校教育、特に戦後は受験戦争に毒され、他人を思いやるどころか同じ教室の仲間を出し抜くといった環境の中で青少年の人間形成が行われて来たことがある。加えて日本経済の高度成長下、GNP信仰という物中心の世の中に育ち豊かであることを当然とし、青少年が精神的な面に価値を見出せなくなってしまった。

日本のこの第3世界への無関心をそのままにしておいてよいのかという疑問も起っている。今仮に発展途上国の人達が「日本からは物を買わない」「物を売らない」と申し合せ、半年でも1年でも頑張ったとしたらどうなるか。困るのは誰かを考えて見よう。間違いなく日本経済は崩壊し政治は大混乱が起るであろう。何よりも日本人は食糧不足で飢餓線をさまようことになる。発展途上国の側も政治家は何らかの利益を失い困るであろうが、民衆はもともと自分たちの食べるものは自給している人々だからいっこうに困らないであろう。幸にして今日このような事態は起らないが、国際的な経済関係から隔絶された時に日本がどうなるかと考えただけで、いかに我々が世界の人々との相互依存の中に住んでいるかがよく認識できよう。

III NGO-Y's Men's Club に期待して。

他人への思いやりや共感、そして自分が多少とも出来ることは他人の苦しみを少しでもやわらげる為に何かしなければという気持を、これからの日本を背負って立つ青少年に。それを養うのは第一に家庭であり、社会である。社会

東和大学国際教育研究所 室 靖 教授

といっても政府というものは歴史的にも構造的にも温かい心は持たないものといえよう。そういうことの出来るのは市民であり民衆である。Non Governmental Organization と呼ばれる、例えばYMCAとかY's Men's Club のように市民が強制されず自分の意志で作った組織こそがこれをなし得る。これからの青少年をこの方向に導いて行くのは、まさにこのNGOであろうと思う。

その意味で本日ここにお集まりの皆さんに大きな期待をもって開発教育のお願いとご協力を訴えるものである。

IV アジアの孤児とならない為に。

開発教育で特に気をつけたいことは、高い所から何かをしてあげようといういわゆるチャリティーの気持を捨てることである。そうではなく同じ人間の仲間としてお互いに苦しみも豊かさも分かち合うという気持から何かをすることが開発教育である。

いずれの国でも開発教育の必要を最初に言い出したのは教会である。教会にはキリストの愛の精神が基本にあるからである。ワイズの皆さんすべてがクリスチャンではなくともYMCAを支援しようとの集まりだから、キリストがその一生を通じて働いた「愛」の信条をぜひとも理解されて、より貧しいもの、飢えたもの、病めるものに目を向けていただきたい。そしてそういう気持を持つ日本人が一人でも多くなることが、日本が世界に仲間入りする道であろうと考えるものである。

人間は何時か人生に別れを告げる日が来る。それならこの世に生きている限り、衣食住にさほど不自由しない程度のものであれば、あとのエネルギーや時間はもう少し高度な精神的なものにかけることの出来る世の中になることを願うものである。

V 行政の援助姿勢にも監視の目を。

57年度の海外協力の予算は9,480億で対前年11.4%の増である。これは国民1人当りにすれば8,000円の税負担となる。これが開発途上国の生活向上の為に使われるのなら誠に結構なことであるが、私達専門の研究によれば残念ながら本当に貧しい人達の為には使われていない。厳しい国の財政の中から1兆円近くの支出がなされていることに對して、納税者の立場としてもこれが我々のぞむような方向に生かされるよう市民の声を盛り上げ、関心を持つことも開発教育なのである。

(文責 在編集者)

—— 来賓の祝辞から ——

・ 温かい心をもって国際的な活躍を期待！

松崎日本区理事

センテニアルクラブは、大阪クラブがスポンサーとなって生れた21番目の息子です。大阪クラブがその50年の歴史の間に21人もの息子を産み出した、その精力的な活動に敬意を表する次第です。

この30年間、日本経済は目ざましい発展をしてきたが、反面種々のひずみを残しました。特に青少年を育てる面ではそれが顕著で、素直な感謝の気持ちやお礼のことも表わせない子供達が出来てしまいました。この時代にあつてY M C Aと共に青少年のために働き奉仕することが、ワイズに課せられた使命であると考えます。

人生を4つの期に分けて考えることが出来ます。20才〜30才はとにかく勉強する期間、次は結婚して家庭を育てる期間です。50才を過ぎると、今まで生活出来て来たことに感謝してこれまで得た知識と余力をもって社会に奉仕する期間であると云えましょう。第4期は死に対する心がまえを作る期間であります。大阪ワイズも50歳を越えて、これからは本当に温かい心をもって奉仕していただきたい。

この時期に誕生したセンテニアルは国際的感覚にすぐれた人達の集まりであり、鈴木謙介氏のような立派な国際人の指導を得て今後は日本区を背負って国際的な活躍をされるよう期待します。

・ ネットも共に国際的社会奉仕に！

篠田中西部長

8月18日(水)センテニアルクラブを公式訪問して、メンバーのみなさんとお話をする機会を得ましたが、このクラブはハイセンスで個性豊かな集まりという印象を受けました。今後はこの個性を十分発揮してアクティブな活動でワイズの運動を高めていただきたい。

本日のチャーターメンバー34名がいつまでも脱落せずに活動を続けられることを期待します。もし迷いが出た時には、このチャーターナイトの感激を思い出して初心に戻って下さい。

センテニアルは特に国際的社会奉仕に努めることを唱っておられるが、英語に堪能なメンバーの多いこのクラブの国際的活躍を期待しています。又、私のスローガンにも上げていますが特に「ネットも共に」この国際的奉仕に努めていただくことをお願いします。

・ メイフラワーの意気込みで理想のワイズダムを！

遊上大阪クラブ会長

この素晴らしいクラブの発足の時にスポンサークラブの会長であることを非常に幸せに思っております。このクラブのチャーターメンバーの働きぶりを見ていると200年前アメリカに新天地を求めて船出したメイフラワーのピューリタンの意気込みを感じさせられます。

大阪クラブ・土佐堀クラブからも働き盛りのメンバー6名が乗組みましたが、それぞれの分野において得られた博く且深い知識と経験をもとにして新しい理想的なワイズメンズクラブを作ろうとしておられることをひしひしと肌



に感じられるのであります。神様がこのクラブを末長くお守り下さるようお祈りします。

・ 世界に広がるワイズの先導に！

橋本日本区メネット事業主任

センテニアルの誕生に際して「後なるものは先へ」ということばを思い出しております。国際的社会奉仕という夢とロマンを盛られた新しいクラブが私達クラブの先に立って世界に広がるワイズメンズクラブとして導いていただきたいと願っております。

・ 巾広く深い社会奉仕を！

李基光大阪堺クラブワイズ

本日は韓国を代表して祝辞を申しあげます。

関西のエリートを代表したといわれるこのセンテニアルクラブが、巾広く且もっと深層に入って社会奉仕の第一線で活躍されんことを祈ります。

今日このセンテニアルクラブを誕生させるまで長い間苦勞と努力をされたスポンサーの大阪クラブの皆様にもお礼を申しあげます。

・ ザンビアにもワイズメンズクラブを約束します。

リチャード・カイル氏

(ザンビア・キトゥエY M C A総主幹)

日本に来て、今日のこの晴れの式に招かれる機会を得たことを感謝します。キトゥエY M C Aには未だワイズメンズクラブはありませんが、昨年10月に啓蒙的な最初の会合を持ちました。この年末までは少くとも一つのクラブを結成し、国際協会にも加盟することを約束します。

祝電拝受(23通)

山田利三郎直前理事・田中真次期理事・野村秋博次々期理事・佐藤邦明監事・宮崎善夫北部部長・藤井清北部直前部長・松本良三東京会長・芥川雅行熱海会長・楠原通弘広島会長・林輝児広島担当主事・今村一之土佐堀ワイズ・奈良吉太郎堺ワイズ・志波健弘和歌山ワイズ・波木居純一東京ワイズ。

甲府・横浜・湯河原・伊東・名古屋東海・名古屋南山・神戸・福岡中央・長崎各クラブ。



チャーター準備委員会奮闘記

準備委員長 長安敏夫

スポンサークラブである大阪ワイズの遊上氏のお誘いに従って、訳の分らぬままに集まったのが昨年の12月でありました。それから10ヶ月、例会や準備会でみんなが意見を交換し知恵を出し合って周到な用意の積み重ねが今日に至ったのであり、無事にチャーターナイトを開催できたことは、正式にチャーターされた喜びと相まって感慨無量という処です。大阪・土佐堀両クラブからはひとかたならぬ応援を頂きました。ここに厚く御礼を申し上げます。

ワイズメンズクラブの存在意義はその設立趣旨や事業内容に見られる通りであります。その根本はやはり親しく人間同志がふれ合うことであると考えます。会場において随所に肩をたたき合って再会を喜び合う姿を拝見して、設営の苦勞も報われたと感じました。お客様方すべてに喜んで頂けたかと一抹の不安は残るものの、一応は成功であったと自画自賛しております。

プラン作りには大阪クラブの遊上、生地両君その他の親切なアドバイスを頂きましたし、又ワイズ歴の長い鈴木、田中、黒田、谷川、中村諸君の良きリードが効を奏したと存じます。特記すべきはメンバーの顔ぶれが実に多彩で、そのひとりひとりが労を惜しまず持てる才能と特典を提供して頂いたことであらうでしょう。会の設営に際してはアイデアの持ち寄り、講師の選定に、また当日の役割分担など積極的にご尽力頂きました。

メネットの記念には鈴木、山中メネットの発案でリース飾花を用意しました。当クラブメネットの協力による手作りのものであったことなど意義は大きかったと存じます。鏡開きの「こもかぶり」は酒造業の安福君に寄贈頂きました。ワイズマークを焼印した升で乾杯できるなんて、願ったりの光景でありました。おみやげの落雁は駿河屋岡本君のご協力で出来上りました。これもワイズのマークやバナーのデザインを木彫りの型どりで紅白に作り上げた心にくい演出であったと存じます。又会場に掲げる看板は竹中工務店の河野、藤本両君のご寄贈であり、みんなメンバーの善意が結集した証しでありました。

チャーターナイトはあたかも成人式を迎えた若人のようなはつらつとした雰囲気を感じました。今やセンテニアルも一人立ちし一人歩きするクラブとなったわけであり、初心を忘れず事業に邁進しさらに発展を続けていきたいと考えるのは私一人ではないと存じます。各方面からのご支援にあらためて厚く御礼申し上げます。

「満たされて」

中川 徹太郎

無事にチャーターナイトを終えた今、私は非常に満たされた気持ちでいっぱいです。

殆んど面識のないお客様方を2階で3階へご案内する役を仰せつかり、いざとなると何を為してよいのやら、慣れない身体はコチコチで、そのうち脚は少々疲れ気味。これで私がどれ程初めのうち緊張していたか、おわかりいただけるかと思ひます。でもどうでしょう。何処を見ても、誰を見ても皆様笑顔、笑顔、笑顔でいっぱいではありませんか。(怒る理由がないので当り前と言え当り前ですね)しかし、いかに素晴らしい衣服といえども、この笑顔に勝るものが他にありませんか。「徹ちゃん、顔は心の遊び場所やで」と言われて育てられてきた私にとって、こんなに沢山の笑顔に出会えるということは、とっても素晴らしいことでした。

第一部での美しいドロシー・グレムさんの「主の祈り」の歌声。心にしみる山中会長の「赤毛のアン」のお話。そして、第二部での室先生の「みんなの者がひとつとなる為



に」と題してのご講演の中での開発教育のお話。その後のシャクティさんの形容難く素晴らしい舞踊。このように、受付に始まり第二部に至って、私の両方の目と耳にはもう満ちてあふれるものがありました。やがておいしそうな匂いに囲まれた中で第三部が始まりました。またまた魅惑的なシャクティさんの踊り。もう胸はいっぱいでした。次にはただお腹をいっぱいにするだけが残っていました。いつものように家で、ひとり自分で料理を作って食べるのももちろんおいしいのですが、やはりこのような楽しい語らいと共に食べるの方が、どんなに楽しいかということをお話の時、しみじみと感じさせられました。

目や耳や鼻や舌を一日の短い時間のうちにこれだけ楽しく過させてやれば、初めて書きましたように、私が満たされた気持ちになったのも当然のことであらうでしょう。人間の持つ五感のうち四感までが、各々100点満点なのですから。そして更に、いつか皆様ともっともっと親しくなれたら、あの人ともこの人とも力いっぱい握手をしたいと思ひます。そして、そのぬくもりを大切にしたいと思ひます。その時、私の五感、総て満たされることなのでしょう。

こんな風に考える私は、少し欲ばかりでしょうか。でも私は、人と人とが集う歓びをこのように身体全身で、いつも味わいたいものです。

日本の、そして世界のワイズメンズクラブが、末長く栄えることを今、心から願って止みません。

興奮/感激/チャーターナイト

上月英子

夜来の風雨もメンバーの情熱に圧倒されたのか9月25日は台風一過すがすがしい秋晴れの日であった。我々センテニアルメンバー待望のチャーターナイトは220余名の出席を得て、さしもの広いロイヤルNCBの会場も熱気に溢れ大阪センテニアルのバイタリティを象徴するかの如く力強いスタートであった。

第一部の式典では厳肅な中にもグレアム夫人の美しい独唱が華やかなムードを盛り上げ、松崎日本区理事を初め遠くザンビアYMCA総主事カイラー氏等多くの心のこもった祝辞や数々のお祝・記念品を頂き予定時間オーバーも気付かぬほど興奮と感激の連続であった。第二部の室先生の記念講演は我々が日頃見過しがちな問題を改めて考えさせられて意義深かった。インド古典舞踊はグラマーなシャクティ嬢の繊細な手指の動きとパワフルな動作が混然一体をなして見る者を魅了した。チャーターナイトのフィナーレを飾る祝宴は会場を移してシャクティ嬢のダイナミックな踊りで幕を開けた。立食パーティは他のクラブの未知の方々とのお話に花を咲かせ当クラブの目的である一党一派に偏しない健全なそして連帯感を持った人々の交流に相応しいものであった。チャーターナイトの成功を祝し大阪センテニアルワイズメンズクラブ万歳!

持てるものを出し合って

メネットサービス 山中 ちあき

3月に初めてY's Menの会に出席いたしましたからこの数ヶ月は何もわからないままに、鈴木メネット、遊上メネットにひとつひとつ手取り、足取りとご指導いただきました。また、メネット会にもお誘いを受け、神戸メネット会に出させていただきましたところ、皆様方がとてもフレンドリーで楽しく過ごすことが出来ました。

チャーターナイトが9月25日と決まりましたから、当日には何かメネットらしく華やかでやさしさのあるものをも考えた末、設立総会では出来なかったメネットの胸につける花を手作りで飾ろうと考えました。まだ残暑の残る9月から、子供達の学校へ行っている間をみつけ、また夜はMenがミーティングをしている隣室で、「老眼で糸が通らない」「手が滑ってビーズを床に落した」「肩がこる。目が疲れる」などといいながらも、初めて逢うメネット達も和気あいあいと親睦を兼ね楽しく作る事が出来ました。

ワイズメンズクラブ国際協会加盟認証状伝達式に出席の前に相互に胸につける花の形を整え合い、初めて力を合わせて作った作品にうめばれながら胸を張っておりました。今まで皆様方に色々助けていただき子育てをして参りましたが、これからは私達の手で力を合わせ少しでもお役に立てることがあればと思います。ビーズの花を作りながら家庭の話、自分の事などお喋りしメネットひとりひとり個性とタレントを持っておられることを知り、チャンスを見つけて講習会やタレントを出し合う会等を作って、出席して楽しかった、よかったといってもらえる会に行きたいと思っております。先輩メネットの皆様どうぞよろしくご指導くださいませ。

◇お誕生日おめでとう

山村 利子さん(M)	10. 9
大野 公聖 君	1952. 10. 12
安福 節子さん(M)	10. 17
藤本まち子さん(M)	10. 20
三浦 浩 君	1946. 10. 23
正司 泰子さん	10. 24

◇結婚記念日おめでとう

大野 公聖・啓子 夫妻	10. 10
松崎 滋雄・久子 夫妻	10. 10
田中 穰二・豊子 夫妻	10. 16
河野 正義・良子 夫妻	10. 31
森田 誠・一美 夫妻	10. 31

9月例会 出席記録〔在籍員 36名〕

	チャーター ナイト	第2例会	Make up	合 計
メ ン	32名	15名	1名	33名
メネット	11名	2名		
出席率 (ヴィジター)	88.89%			91.67%
メ ン	139名	1名		
メネット	39名			
コメット	1名			

◇ヴィジター各クラブ内訳

日本区(10) 東京(4) 東京北(2) 金沢(1)
名古屋(3) 彦根・彦根シャトー・近江八幡(各1)
京都(2) 京都バレス(9) 京都ウエスト(4) 神戸(9)
西宮(1) 広島(2) 大阪(31) 土佐堀(23) 泉北(11)
千里・高槻(各9) 奈良(7) 堺・河内・長野(各6)
和歌山(6) サウス・豊中(各5) 枚方(4) 田辺(1)

YMCA ニュース

先日のチャーターナイトは大変ご苦勞様でした。いろいろの困難を見事乗り越えて、大事業を無事達成出来ましたことはご同慶のいたりです。このエネルギーをさらに立派なクラブ作りに生かしていただくようお願いします。

秋は行事の多い時期ですが、その中で、協力会員の集いとして第1回堂島ラウンジセミナーが開かれます。これは当クラブの鈴木謙介先輩をホストに毎回ちがったお茶をのみながらお茶と人間とのかかわりを5回にわたって考えようということろみです。皆様のご参加をお待ちしております。なお詳細は受付のハガキをご覧ください。

〔あ と が き〕

〇いよいよ本番の第1号はチャーターナイト特集とした。あの興奮をいつまでも忘れないためのメモリーとなれば幸いです。

“鈴木謙介氏 バレンタイン賞受賞” 記念祝賀会

わがセンテニアルの名譽ある書記鈴木謙介氏の栄あるバレンタイン賞受賞を記念した祝賀会は、日本区主催、大阪クラブのホストによって10月9日(土)大阪電気倶楽部において、晴れやかに開催された。YMCA歴52年、ワイズ歴42年という長い間、しかも日本区理事・国際会長など幅広い活躍の足跡を物語るように、全国からお祝いにかけてきたワイズメン・メネットは130余名、それぞれにご夫妻の栄光を讃えつつ交歓のひと時をもった。

席上、松崎日本区理事、篠田中西部長はじめ各クラブ代表からの祝辞に応え、鈴木氏は「この賞は私個人に対してというよりは、日本のワイズダム、アジアのワイズダムを讃える意味で贈られたのだと理解して皆さんと共々誇りに思いたい」と謙虚にいわれ、一同感銘深くすると同時に今後の活動に対して勲を受けた思いであった。

受賞の内容については以下に原文と訳文を掲載する。



ハリ・エム・バレンタイン賞

日本国大阪 鈴木謙介に

感謝をもって贈る

YMCAには1930年来52年間にわたって顕著にして絶ゆまない奉仕を、ワイズダムには1940年来42年間にわたって、クラブ、区、地域および国際それぞれの役員として奉仕されたことを表彰し、

自己の時間とタラントとエネルギーを常に惜しまず与え、1951年度大阪クラブ会長、1958年度日本区理事、1965年度国際副会長および1975年度国際会長としての任期をつとめたワイズマンとしての献身を表彰し、

大阪YMCA、東京YMCAおよび日本YMCA同盟に対する指導性、特にYMCA同盟理事および全国YMCA3ヶ年前進運動委員長ならびに東京YMCAメトロ・システム研究委員長として示された熱誠を表彰し、

国際会長として任期をはたして後も、常にワイズメンを思い、ワイズメンのために活動し、日本のみならずアジア地域、さらに世界中のワイズメンに向けてすぐれた靈感を与えつつなされた奉仕の数々を表彰し、

あわせて、妻・美藤が家庭にあってワイズダムの生き方を求め、それを日常に活かすため忠実になされた協働奉仕を表彰する。

ワイズメンズクラブ国際協会により
韓国ソウル市で開催の第55回国際大会にて
1982年7月20日

(日本区文献サービス専門委員
生地幸雄)

HARRY M. BALLANTYNE AWARD

Gratefully bestowed upon

SUZUKI KENSUKE

Osaka, Japan

In recognition of 52 years of continuous, outstanding service for YMCA since 1930, and 42 years of service for Y'SDOM, since 1940 in Local, Regional, Area and International capacities.

In recognition of a committed Y's Man who has always given freely of his time, talent and energy including a term as President of the Osaka Club in 1951, Regional Director in 1958, International Vice-President in 1965 and International President in 1975.

In recognition of a commitment evidenced in his leadership to the Osaka, Tokyo and National YMCA, especially in the role as board member and Chairman of the 3 year development plan for the National YMCA of Japan and as the Chairman for the study-group of the Metropolitan Board system of the Tokyo YMCA.

In recognition of his services for Y'SDOM since his term as International President, thinking of Y's Men, working for Y's Men, giving his great spiritual inspiration for Y's Men in Japan, in Asia and world-wide.

In recognition also of the dedicated service of his wife, Mifuji, who helped make Y'SDOM a way of life in their home.

by

Y's MEN INTERNATIONAL

At 55th International Convention, Seoul, Korea

July 20th, 1982

Bjorn Pedersen
International Secretary General

Joseph Ohm
International President